

「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 臼杵

開催概要

開催日：令和 8 年6月30日

【学校訪問】臼杵市立海辺小学校

【訪 問 者】大分県教育委員会（山田教育長、教育委員、教育次長 他）

臼杵市教育委員会（安東教育長、教育委員 他）

1. 概要説明

臼杵市立海辺小学校では、「学びから逃げない子ども」および「主体的に学びに向かう集団の育成」を目標に掲げ、全職員で組織的に取り組んでいる。

具体的取組：「振り返りノート（あしあと）」の活用

単なる「わかった・できた」の確認にとどまらず、「次はこうしたい」という自らの問いや目標を見つけ出す指導を徹底している。

取組の成果：3年前には全校児童の1割以上に達していた遅刻・欠席が劇的に改善された。不登校傾向にあった児童が自ら目標を立てリーダーとして活躍するなどの具体的な成長が見られている。



海辺小学校 佐藤校長

2. 授業参観

(1) 北ブロック3校合同交流会（人間関係づくりプログラム）

本時のねらい：来年4月の統合（海辺小・下ノ江小・佐志生小）に向け、学校の垣根を越えて互いの個性を認め合い、良好な人間関係を構築する。

授業の実際：3校の児童たちがお互いのことをよく知ろうと積極的に交流し合う様子が見られた。活動の最後には、海辺小学校の「振り返りノート」を使って振り返りをし、児童たちが、ノートの書き方について教え合う姿も見られた。



3校合同交流会の様子

【意見交換会テーマ】学校・家庭・地域・行政が一体となって進める「きょう育」について

【出 席 者】 学校訪問及び学校等関係者

1. 臼杵市の取組説明

未来の学校デザイン：臼杵市教育委員会より、小中一貫教育の展開に向けて、単なる「枠組みづくり」に留まらず新たな学びの拠点を作るための「人づくり構想」として3つのステージが示された。

第1ステージ：小中一体教育の深化

中学校区を一つのコミュニティとし、小学校と中学校を繋ぐことで、こどもの9年間の学びと育ちを切れ目なく支える人づくり構想の土台を築いてきた。その成果として、ここ数年、学力・体力において小・中ともに県内でも、高い水準を維持することができている。

第2ステージ：適正配置と学校統合

多様な考えに触れる「協働的な学び」には一定の集団規模が必要と考え、最低でも1学級4～5人×3班が構成できる環境の整備を進めていく。

第3ステージ：小中一貫校の設置

地域の実情に合わせ施設一体型などの形態を柔軟に検討している。9年間の教育課程編成やICT活用、地域人材が関わる放課後活動の拠点化により、地域と共にある学校をさらに推進していく。



臼杵市「未来の学校デザイン」の全体像

2. 意見交換

(1)協議テーマ1「協働的な学びを実現するための統合を含めた教育環境の整備について」

児童数の減少に伴う学校の過小規模化が進む中で、こどもたちが多様な考えに触れ、互いに高め合う「協働的な学び」に必要な集団規模（4～5人のグループが複数構成できる環境）を保障するための統合計画と、それに向けた具体的な教育環境の整備について議論された。

【協議で出された主な意見】

交流活動の成果①：野津ブロックの7日間連続交流では、不安を感じていた児童のうち、野津小学校では86%、南野津小学校、川登小学校では100%の児童が「不安が減った」と回答しており、環境整備の有効性が示された。

交流活動の成果②：大人数でのグループ学習により、「自分の意見を聞いてもらう体験」や「考えの広がり・深まり」を児童が実感できた。

切磋琢磨できる環境：小規模校から高校へ進学したこどもが「多くの友達と意見交換ができる環境が楽しい」という意見を聞くことがある。ある程度の集団規模を確保することが重要であると考える。

支援体制：統合支援加配教員が中心となり、特別な支援を必要とする児童や不登校傾向にある児童へのきめ細かな個別ケアの継続が不可欠である。



臼杵市 安東教育長

(2)協議テーマ2「目標協働達成に向けた学校・家庭・地域の新たな連携のあり方について」

学校統合を「地域の衰退」ではなく、「持続可能な新しいコミュニティづくり」のチャンスと捉え、地域・家庭・行政が一体となった支援体制の再構築を目指していくことや、地域独自の伝統や行事を統合後の学校教育や社会教育の中でどのように継承しこどもたちの「郷土愛」を育むかが議論された。

【協議で出された主な意見】

地域の心情への配慮：統合を惜しむ地域住民に対し、「学校はこどもたちのためにある」という視点を共有し、粘り強く対話を重ね理解を得てきた。

地域リーダーの主体性：統合予定の3校の区長会が、行政主導ではなく自発的に交流会を開催して親睦を深めるなど、大人の繋がりが先行して安心感を醸成している。

伝統の継承：川登地区の「和紙」作りや、風連鍾乳洞でのガイド活動など、地域特有の学習を統合後も継続し、他地域のこどもたちも巻き込んだ広いコミュニティ活動へ発展させることが必要である。

家庭との協働：学力の基盤は家庭にある。低学年からの「宿題の丸付け依頼」や生活習慣の徹底など、学校と家庭の強い信頼関係が成果を上げている。



前列：臼杵市小・中学校長
後列：臼杵市小・中学校教諭

3. 今後に向けて

未来の学校デザインの推進：臼杵市では単なる箱物の統合ではなく、小中一体教育からさらに一歩進んだ「小中一貫校」の設置を視野に入れ、9年間を見通した切れ目のない教育環境を整備していく予定。

持続可能な地域社会の創出：学校教育の枠を超え、社会教育の場とも連携しながら、統合を機に地域コミュニティが広がり、助け合える「持続可能な臼杵」を創り上げていく。

4. 意見交換を終えて

安東教育長より：学校統合を現場で支える先生方が同席し、学校と行政が「こどもたちのために」という思いを共有できた。統合を前向きなチャンスと捉え、持続可能なコミュニティを地域と共に創り上げたい。

山田県教育長より：臼杵市は学力・体力共に優れた成果を上げている。今回の有意義な学びを県政に活かすとともに、現場の要望に寄り添い、臼杵市の教育を精一杯支援していきたい。



大分県 山田教育長